

景況調査

報告書

No. 95

令和4年4月～6月
令和4年7月～9月

実績
見通し



蒲郡商工会議所
中小企業相談所

令和4年度第1四半期(令和4年4月～6月)景況調査

1. 調査時点 令和4年7月1日～7月25日

2. 調査対象

- (1) 対象地区 蒲郡市内
 (2) 対象(回答)企業 113 [106 企業、7団体] 三河織物工業(協)、中部繊維ローブ工業(協)、蒲郡市上下水道工事(協)、蒲郡建設業(協)、三河繊維産元(協)、蒲郡地区旅館組合、蒲郡鉄工会]

3. 調査方法

聞き取り調査によるアンケート調査

4. 回答企業の内訳

業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業	全業種
合計	48 (3)	8 (2)	17 (1)	19	12 (1)	9	113 (7)

※ () は団体

5. 概況

全業種総合判断DI値(当期実績)は、前期比では-16.8、前期実績(-26.7)に比較すると9.9ポイントと上昇の傾向が見られ、前年同期比では、-15.0、前期実績(-17.1)に比較すると2.1ポイントと横バイの傾向が見られた。売上DI値は、前期比で-6.2、前期実績(-16.2)と比較すると10.0ポイントと上昇の傾向が見られた。収益DI値は、前期比で-22.2、前期実績(-35.2)と比較すると13.0ポイントと上昇の傾向が見られた。総合判断来期見通しは-20.4、当期の実績(全業種(当期実績)前期比-16.8)と比較すると-3.6ポイントと横バイの傾向が見られた。

「製造業」のうち食料品は生産額・売上額は前年同期比・前期比ともに上回るも、原材料高騰・円安等によるコスト高を転嫁できるかが収益確保の分岐点織物は原材料・コスト高が収益を圧迫し、売上・収益とも厳しい状況が続く。漁網・ローブは前年同月比で生産101.0%。販売数量87.5%。販売金額102.0%と価格転嫁の関係で、数量は減少も販売金額は前年並み。一方、今後、さらなる原材料高騰と価格転嫁が懸念される。鉄工のうち<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は4月1,549億円、5月1,533億円、6月1,546億円。内需・外需とも前年同月比を上回る。当地区も同傾向にあるが、コスト負担増による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタ国内日当たり生産は4～6月にかけ1万3～4千台と堅調な水準も、半導体などの原材料不足、大規模漏水の影響も受け生産調整もあり遅れが継続。化学工業は円安による輸出部門への好影響、輸入コストの増加が混在している。プラスチックは経済全体は正常化に近づくも、為替や地政学等のリスクに左右される状況であった。

「建設業」は公共工事は順調、民間の設備投資意欲も旺盛で受注はあるが資材不足等で現場の稼働に遅れ。人材確保が受注を左右。

「卸売業」のうち、繊維卸は<産業資材>車両用基布の動きは昨年後半から改善せず、半導体・部品不足による生産調整で需要低迷。他の資材は回復傾向も原料高による需要停滞の兆候。総じてコロナ前の7～8割の状況。<インテリア>上海ロックダウンもあり商品入荷に遅れ。4月は昨年並。5月前半は好調も後半は停滞。6月は夏商材に動きあり。<アパレル>原材料のコストアップでインフレ傾向にあるが、店頭での製品単価への転嫁が中々進まない。

「小売業」はコロナ感染再拡大により贈答品等が伸び悩んだ一方で、盛夏に入り夏物衣料等は一部好調であった。一方で、原材料価格高騰で利幅縮小が進み全体的に苦しい状況。飲食は上向き始めているが、個人利用中心で、団体・冠婚葬祭等の会食は減少し業態による差が拡大。また原料価格高騰に対し価格転嫁が難しく利幅は縮小。石油等その他小売は原油価格はロシア原油の供給懸念で上昇。中国の都市封鎖等による需要減を受けて下落する局面もあるが比較的高い水準にとどまっている。

「サービス業」のうち旅館関係は4～6月は「あいち旅eマネーキャンペーン」など県民割・中部ブロック割等の影響で、宿泊者数は前年比7割増も2019年比では未だ6割程度。ウクライナ情勢等にもよるコスト高について、宿泊料金の転嫁は容易でなく利幅が悪化で厳しい。

「運輸通信業」貨物輸送では全体的な物量は増加しているが、半導体等の原材料不足で伸び悩む自動車関連では前年同期比で減少したケースも見られた。

設備投資状況は、37事業所(54件)で設備投資が実施され「生産設備(38.9%)」等に投資された。来期は32事業所(51件)が「生産設備(33.3%)」等の設備投資を計画している。

経営上の問題点は、売上の停滞・減少、原材料(燃料)高、利幅の縮小、人手不足、競争激化、が項目別で上位を占めている。

当地区において 令和4年度第1四半期は、前年同期比で売上は上昇するも、総合的には横バイから下降傾向。業種毎では、製造業関連は内需・外需ともに回復基調の一方、自動車関連で原材料不足による生産遅れが継続。経営上の問題点では、売上減少を訴える声が1割程度減少した反面、コスト増・収益減も同じ5割前後の水準になり「売上増・収益減」の状況。観光・飲食など抑制されていた業種では戻りつつあるが、コロナ前に比べ個人消費は低調な状況が続く。

全業種(当期実績)

(DI 単位:%)

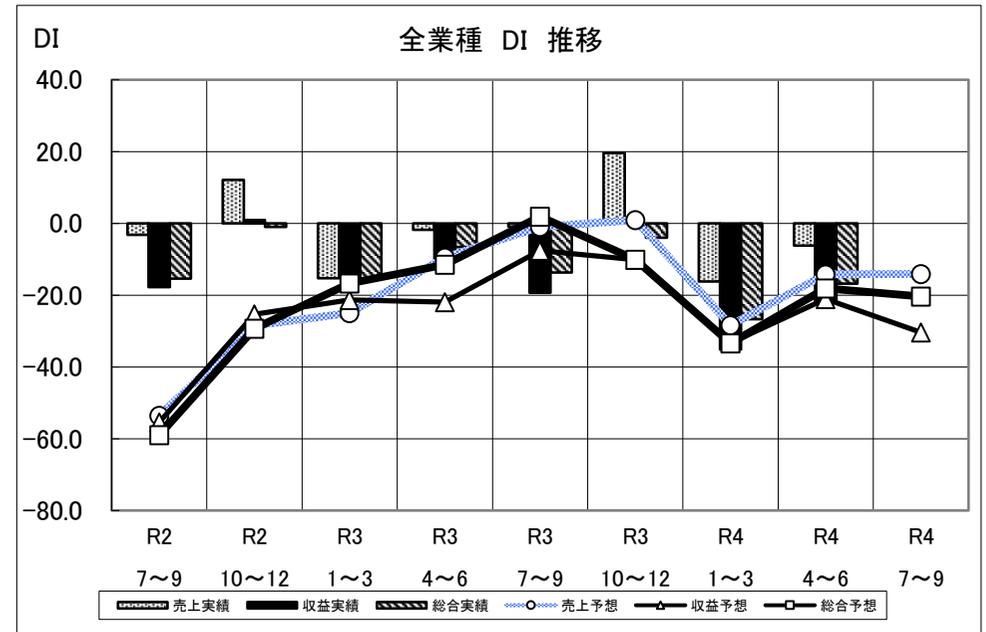
<全業種 各項目期別推移>

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月～6月 に比べて	前期比 令和4年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月～9月 の見通し		売上		収益		総合判断		
					前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	前年同期比	前期比	来期見通し
①生産額・売上額	1.7	-6.2	-14.1	R3.4～6月実績	17.8	-1.8	3.8	-10.5	6.6	-6.6	1.9
②製品・商品在庫	-15.4	-13.6	-12.7	R3.7～9月実績	-12.9	-0.9	-19.3	-19.3	-10.0	-13.7	-10.1
③資金繰り	-9.8	-7.2	-11.6	R3.10～12月実績	1.9	19.6	-19.6	0.0	-16.7	-4.0	-33.4
④採算(収益)	-23.9	-22.2	-30.4	R4.1～3月実績	-14.3	-16.2	-23.8	-35.2	-17.1	-26.7	-18.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	1.8	2.7	-0.9	R4.4～6月実績	1.7	-6.2	-23.9	-22.2	-15.0	-16.8	-20.4
⑥貴社の業況(総合判断)	-15.0	-16.8	-20.4								

[総合判断]

業種	前年同期比	前期比	見通し	業種	前年同期比	前期比	見通し
全業種				卸売業			
				(繊維卸)			
製造業				小売業			
(食料品)				(飲食)			
(織物)				(石油等その他小売)			
(漁網・ロープ)				サービス業			
(鉄工)				(旅館)			
(化学・プラスチック)				運輸通信業			
建設業				(旅客・貨物輸送・水運)			



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-3.2	12.1	-15.3	-1.8	-0.9	19.6	-16.2	-6.2	-14.1
収益	-17.8	0.9	-14.3	-10.5	-19.3	0.0	-35.2	-22.2	-30.4
総合	-15.4	-1.0	-15.4	-6.6	-13.7	-4.0	-26.7	-16.8	-20.4

◎DI (デフュージョン・インデックス 業況判断指数)について

DIは景気が上向きか、下向きかを表す指数である。

DI(%)=増加・良好などの割合-減少・悪化などの割合

(注)生産額・売上額 :DI=(増加)-(減少)
製品・商品在庫 :DI=(減少)-(増加)
資金繰り :DI=(好転)-(悪化)

採算(収益) :DI=(上昇)-(下降)
従業員数 :DI=(増加)-(減少)
業況(総合判断):DI=(好転)-(悪化)

DIが0より大 ⇒ 景気上向き
DIが0 ⇒ 景気横ばい
DIが0より小 ⇒ 景気下向き

(総合判断のDIの目安)

DI 50%以上

DI 6~49%

DI 5~-5%



DI -6~-49%

DI -50%以下



6. 業種別報告

製造業

売上DI値は6.2、前期実績(1～3月期0.0)に比して6.2ポイントの上昇、収益DI値は-12.5、前期実績(1～3月期-18.8)に比して6.3ポイントの上昇、総合判断DI値は-12.5、前期実績(1～3月期-16.6)に比して4.1ポイントの横バイとなった。

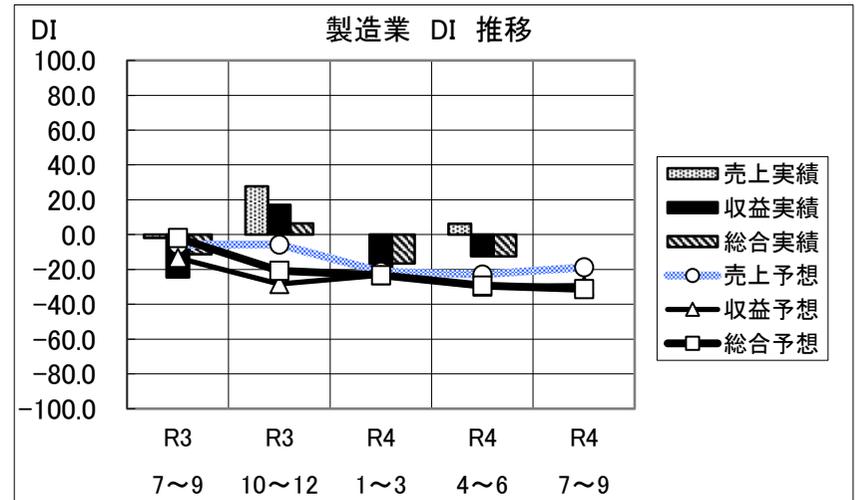
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-18.7ポイントの下降、収益DI値は-29.2ポイントの下降、総合判断DI値は-31.2ポイントの下降となっている。

製造業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月～6月 に比べて	前期比 令和4年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	2.0	6.2	-18.7
②製品・商品在庫	-10.5	-10.5	-10.4
③資金繰り	-12.7	-6.4	-12.8
④採算(収益)	-27.1	-12.5	-29.2
⑤従業員数(含む臨時・パート)	6.2	8.4	6.2
⑥貴社の業況(総合判断)	-18.7	-12.5	-31.2



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	-1.9	27.7	0.0	6.2	-18.7
収益	-24.5	17.0	-18.8	-12.5	-29.2
総合	-11.3	6.4	-16.6	-12.5	-31.2

[食料品]

売上DI値は66.7、前期実績(1～3月期-60.0)に比して126.7ポイントの上昇、収益DI値は16.7、前期実績(1～3月期-80.0)に比して96.7ポイントの上昇、総合判断DI値は0.0、前期実績(1～3月期-40.0)に比して40.0ポイントの上昇となった。生産額・売上額は前年同期比・前期比ともに上回るも、原材料高騰・円安等によるコスト高を転嫁できるかが収益確保の分岐点

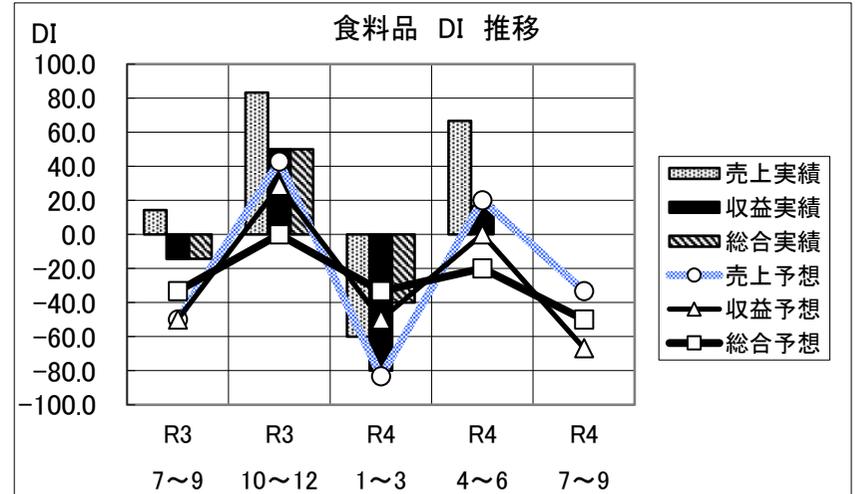
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0ポイントの下降となっている。

(食料品)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月～6月 に比べて	前期比 令和4年1月～3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月～9月 の見通し
①生産額・売上額	50.0	66.7	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	-16.7	0.0
③資金繰り	16.7	33.3	-16.7
④採算(収益)	0.0	16.7	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	50.0	16.6	16.7
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-50.0



<業況判断DIの推移>

	7～9月	10～12月	1～3月	4～6月	7～9月見通し
売上	14.3	83.3	-60.0	66.7	-33.3
収益	-14.3	50.0	-80.0	16.7	-66.7
総合	-14.3	50.0	-40.0	0.0	-50.0

【織物】

売上DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-66.7)に比して16.7ポイントの上昇、収益DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-33.3)に比して-16.7ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。原材料・コスト高が収益を圧迫し、売上・収益とも厳しい状況が続く。

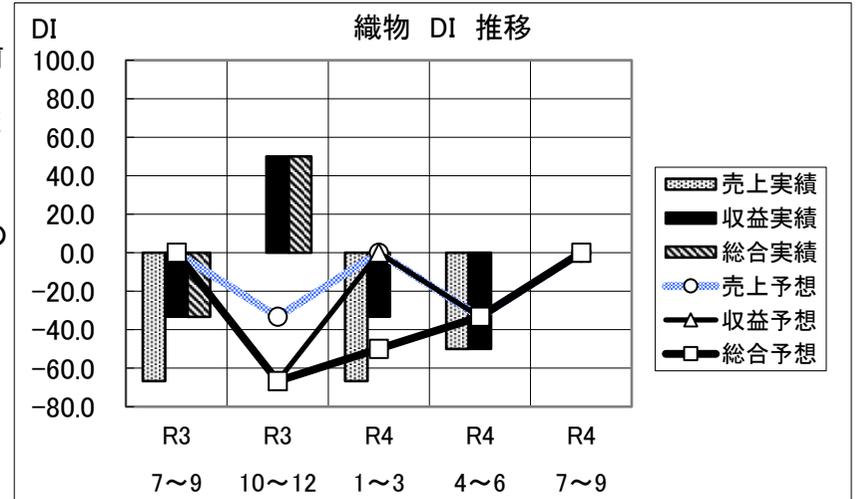
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

(織物)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	-50.0	0.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	0.0
③資金繰り	0.0	0.0	0.0
④採算(収益)	-50.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-66.7	0.0	-66.7	-50.0	0.0
収益	-33.3	50.0	-33.3	-50.0	0.0
総合	-33.3	50.0	0.0	0.0	0.0

【漁網・ロープ】

売上DI値は16.6、前期実績(1~3月期40.0)に比して-23.4ポイントの下降、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期0.0)に比して0.0ポイントの横バイとなった。前年同月比で生産101.0%。販売数量87.5%。販売金額102.0%と価格転嫁の関係で、数量は減少も販売金額は前年並み。一方、今後、さらなる原材料高騰と価格転嫁が懸念される。

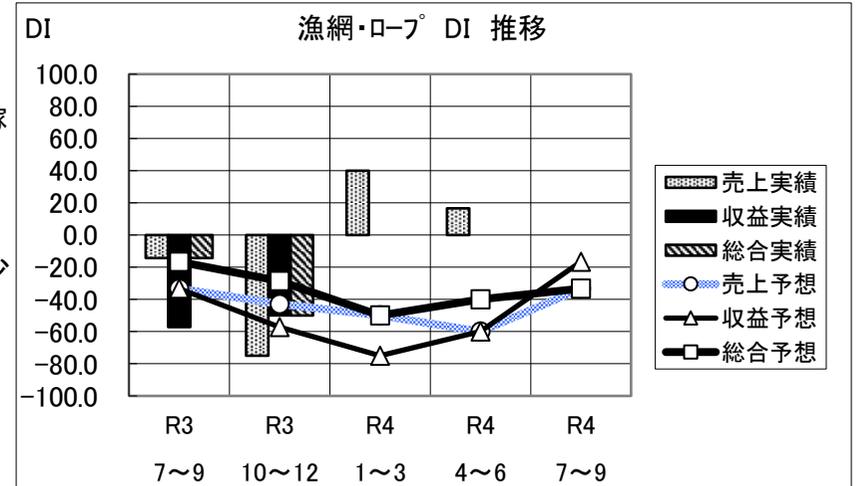
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-33.3ポイントの下降、収益DI値は-16.6ポイントの下降、総合判断DI値は-33.3ポイントの下降となっている。4月以降の原材料値上げに伴う販売価格への転嫁により販売数量は減少も販売金額は増加。秋頃に再度原材料値上げが予想され、価格転嫁交渉が必要となる見込み。

(漁網・ロープ)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	16.6	16.6	-33.3
②製品・商品在庫	-33.3	0.0	-16.7
③資金繰り	0.0	-16.7	-16.7
④採算(収益)	-66.7	0.0	-16.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	16.7	0.0	-33.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	-75.0	40.0	16.6	-33.3
収益	-57.1	-50.0	0.0	0.0	-16.6
総合	-14.3	-50.0	0.0	0.0	-33.3

[鉄工]

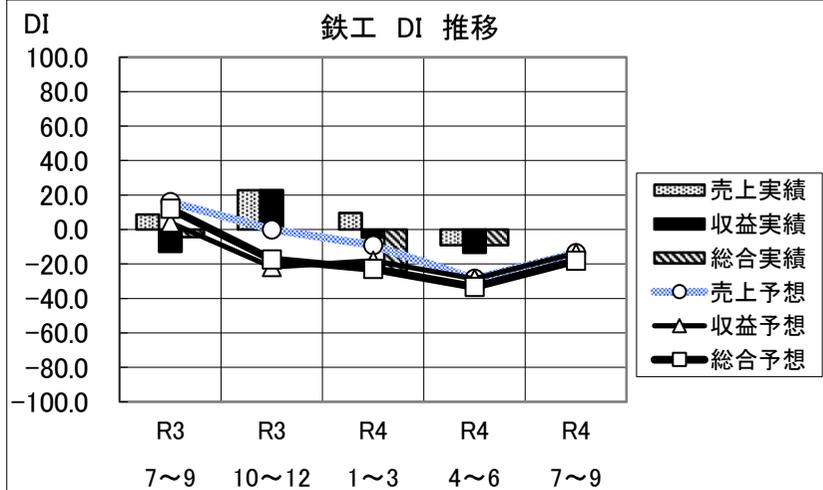
売上DI値は-9.1、前期実績(1~3月期9.6)に比して-18.7ポイントの下降、収益DI値は-13.6、前期実績(1~3月期-4.8)に比して-8.8ポイントの下降、総合判断DI値は-9.1、前期実績(1~3月期-23.8)に比して14.7ポイントの上昇となった。<工作機械関係>日本工作機械工業会の受注総額は4月1,549億円、5月1,533億円、6月1,546億円。内需・外需とも前年同月比を上回る。当地区も同傾向にあるが、コスト負担増による収益悪化が不安材料。<自動車部品関係>トヨタ国内日当たり生産は4~6月にかけ1万3~4千台と堅調な水準も、半導体などの原材料不足、大規模漏水の影響も受け生産調整もあり遅れが継続。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は-13.7ポイントの下降、収益DI値は-13.7ポイントの下降、総合判断DI値は-18.2ポイントの下降となっている。

(鉄工) (一般機械器具・輸送用機械・精密機械) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-22.8	-9.1	-13.7
②製品・商品在庫	-9.1	-13.7	-9.1
③資金繰り	-23.8	-9.5	-4.7
④採算(収益)	-13.7	-13.6	-13.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-4.6	9.1	4.6
⑥貴社の業況(総合判断)	-27.3	-9.1	-18.2



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	8.7	22.8	9.6	-9.1	-13.7
収益	-13.0	22.8	-4.8	-13.6	-13.7
総合	-4.4	0.0	-23.8	-9.1	-18.2

[化学・プラスチック]

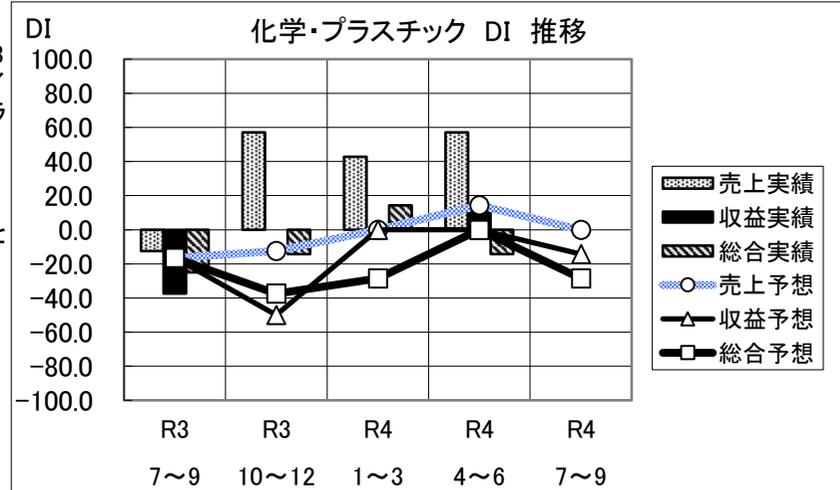
売上DI値は57.1、前期実績(1~3月期42.8)に比して14.3ポイントの上昇、収益DI値は14.3、前期実績(1~3月期0.0)に比して14.3ポイントの上昇、総合判断DI値は-14.3、前期実績(1~3月期14.3)に比して-28.6ポイントの下降となった。<化学>円安による輸出部門への好影響、輸入コストの増加が混在している。<プラスチック>経済全体は正常化に近づき、為替や地政学等のリスクに左右される状況であった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-14.3ポイントの下降、総合判断DI値は-28.6ポイントの下降となっている。<化学>円安影響の懸念と原材料高の行方を注視している。<プラスチック>新型コロナの海外での感染再拡大や、ウクライナ情勢等の影響を懸念。

(化学・プラスチック) (DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	57.1	57.1	0.0
②製品・商品在庫	-14.3	-28.6	-42.9
③資金繰り	-28.6	-28.6	-28.6
④採算(収益)	-14.3	14.3	-14.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	14.3	14.3	14.3
⑥貴社の業況(総合判断)	-28.6	-14.3	-28.6



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-12.5	57.1	42.8	57.1	0.0
収益	-37.5	0.0	0.0	14.3	-14.3
総合	-25.0	-14.3	14.3	-14.3	-28.6

建設業

売上DI値は-50.0、前期実績(1~3月期37.5)に比して-87.5ポイントの下降、収益DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-25.0)に比して-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は-62.5、前期実績(1~3月期0.0)に比して-62.5ポイントの下降となった。公共工事は順調、民間の設備投資意欲も旺盛で受注はあるが資材不足等で現場の稼働に遅れ。人材確保が受注を左右。

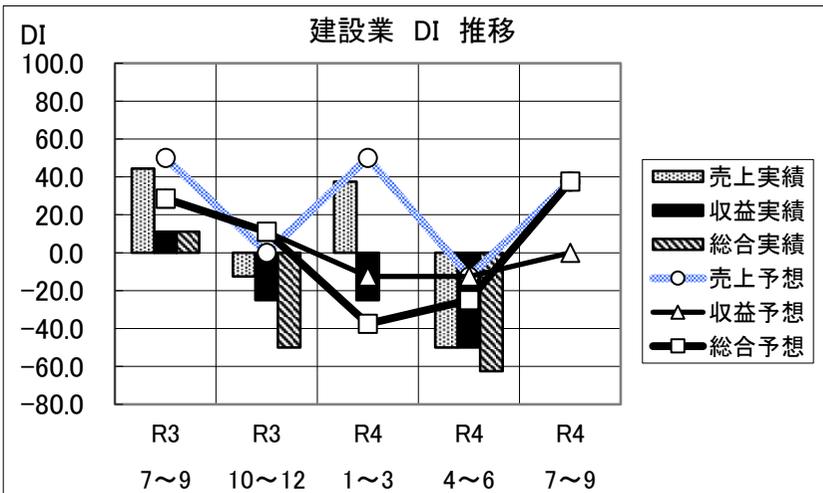
向こう3カ月の見通し

売上DI値は37.5ポイントの上昇、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は37.5ポイントの上昇となっている。仕事量はあるが人手不足への対応と、人件費・原材料のコスト高による利幅の縮小を懸念。

建設業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-25.0	-50.0	37.5
②製品・商品在庫	14.3	14.3	28.6
③資金繰り	-12.5	0.0	12.5
④採算(収益)	-25.0	-50.0	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-12.5	0.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-50.0	-62.5	37.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	44.4	-12.5	37.5	-50.0	37.5
収益	11.1	-25.0	-25.0	-50.0	0.0
総合	11.1	-50.0	0.0	-62.5	37.5

卸売業

売上DI値は-5.9、前期実績(1~3月期-69.2)に比して63.3ポイントの上昇、収益DI値は-52.9、前期実績(1~3月期-69.2)に比して16.3ポイントの上昇、総合判断DI値は-29.5、前期実績(1~3月期-53.8)に比して24.3ポイントの上昇となった。

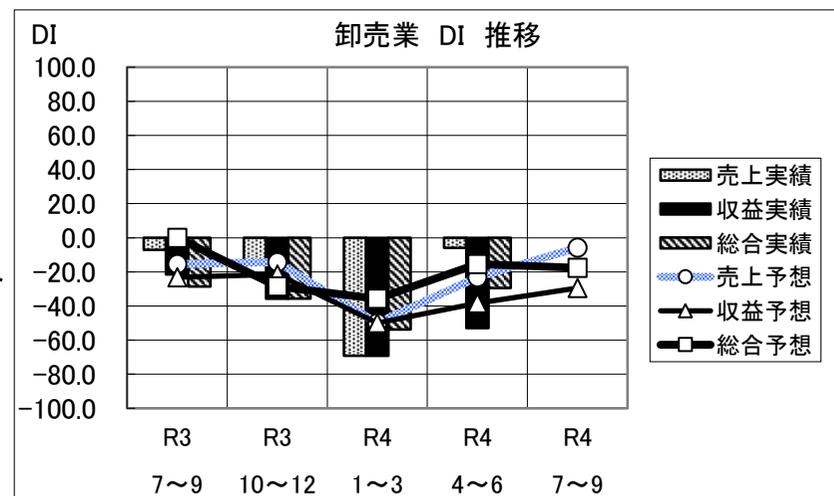
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-5.9ポイントの下降、収益DI値は-29.4ポイントの下降、総合判断DI値は-17.7ポイントの下降となっている。

卸売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-29.5	-5.9	-5.9
②製品・商品在庫	-47.1	-35.3	-41.2
③資金繰り	-5.9	-5.9	0.0
④採算(収益)	-47.1	-52.9	-29.4
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-5.9	-11.8
⑥貴社の業況(総合判断)	-35.3	-29.5	-17.7



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-7.1	-14.3	-69.2	-5.9	-5.9
収益	-21.5	-35.7	-69.2	-52.9	-29.4
総合	-28.6	-35.7	-53.8	-29.5	-17.7

【繊維卸】

売上DI値は-12.5、前期実績(1~3月期-66.7)に比して54.2ポイントの上昇、収益DI値は-62.5、前期実績(1~3月期-66.7)に比して4.2ポイントの横バイ、総合判断DI値は-37.5、前期実績(1~3月期-58.4)に比して20.9ポイントの上昇となった。<産業資材>車両用基布の動きは昨年後半から改善せず、半導体・部品不足による生産調整で需要低迷。他の資材は回復傾向も原料高による需要停滞の兆候。総じてコロナ前の7~8割の状況。<インテリア>上海ロックダウンもあり商品入荷に遅れ。4月は昨年並。5月前半は好調も後半は停滞。6月は夏商材に動きあり。<アパレル>原材料のコストアップでインフレ傾向にあるが、店頭での製品単価への転嫁が中々進まない。

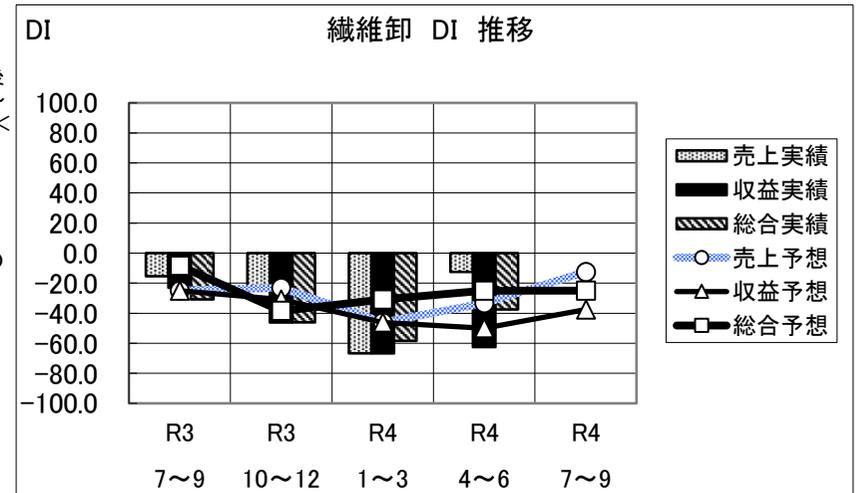
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-12.5ポイントの下降、収益DI値は-37.5ポイントの下降、総合判断DI値は-25.0ポイントの下降となっている。<産業資材>車両用基布は生産調整により7~9月も厳しい見込み。他の資材用途は車両関係の遅れも影響し回復のスピードが鈍化。原材料高騰で様子見の影響を感じる。<インテリア>入荷は徐々に改善される見込み。7月は天候の影響で前年割れも8・9月は前年並みの見込み。円安の影響を注視。<アパレル>原料高、円安、再びコロナ感染の拡大で先行き不透明。

(繊維卸)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-37.5	-12.5	-12.5
②製品・商品在庫	-50.0	-37.5	-37.5
③資金繰り	-6.2	-6.2	0.0
④採算(収益)	-56.3	-62.5	-37.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	0.0	-6.3	-12.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-43.8	-37.5	-25.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-15.4	-23.1	-66.7	-12.5	-12.5
収益	-23.1	-46.1	-66.7	-62.5	-37.5
総合	-30.8	-46.1	-58.4	-37.5	-25.0

小売業

売上DI値は-47.4、前期実績(1~3月期-19.1)に比して-28.3ポイントの下降、収益DI値は-52.6、前期実績(1~3月期-42.8)に比して-9.8ポイントの下降、総合判断DI値は-42.1、前期実績(1~3月期-23.8)に比して-18.3ポイントの下降となった。コロナ感染再拡大により贈答品等が伸び悩んだ一方で、盛夏に入り夏物衣料等は一部好調であった。一方で、原材料価格高騰で利幅縮小が進み全体的に苦しい状況。

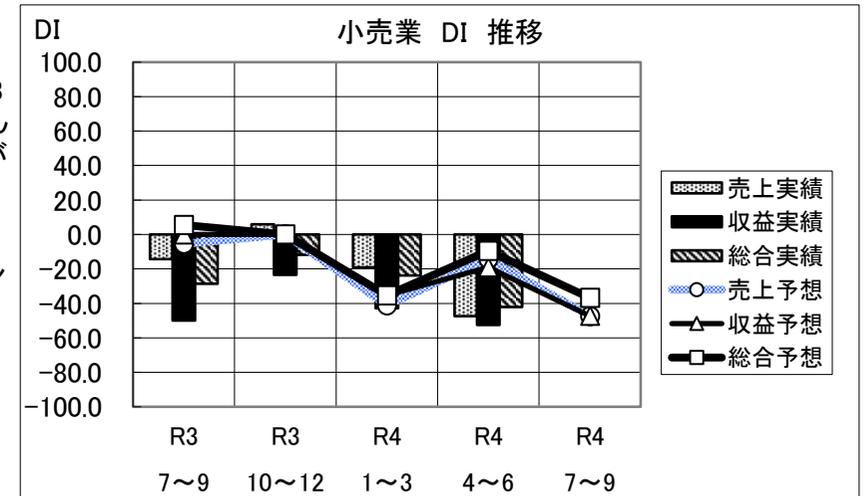
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-47.4ポイントの下降、収益DI値は-47.3ポイントの下降、総合判断DI値は-36.8ポイントの下降となっている。新型コロナの影響は緩和しつつあるが、円安・物価高による消費意欲の冷え込みを懸念。

小売業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-26.3	-47.4	-47.4
②製品・商品在庫	-15.8	-15.8	-5.3
③資金繰り	-26.3	-26.3	-42.1
④採算(収益)	-57.9	-52.6	-47.3
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-31.6	-21.0	-10.5
⑥貴社の業況(総合判断)	-36.8	-42.1	-36.8



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-14.3	5.9	-19.1	-47.4	-47.4
収益	-50.0	-23.5	-42.8	-52.6	-47.3
総合	-28.6	-11.8	-23.8	-42.1	-36.8

【飲食】

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期33.3)に比して-33.3ポイントの下降、収益DI値は-100.0、前期実績(1~3月期-66.7)に比して-33.3ポイントの下降、総合判断DI値は0.0、前期実績(1~3月期33.3)に比して-33.3ポイントの下降となった。上向き始めているが、個人利用中心で、団体・冠婚葬祭等の会食は減少し業態による差が拡大。また原料価格高騰に対し価格転嫁が難しく利幅は縮小。

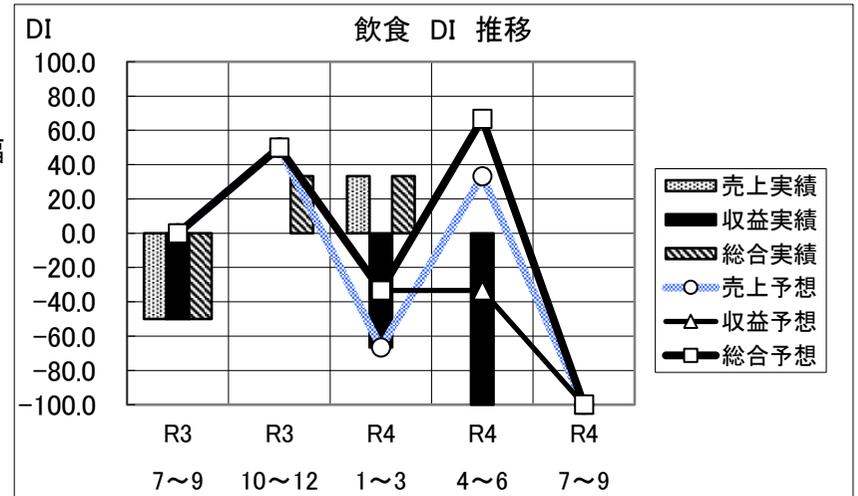
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-100.0ポイントの下降、収益DI値は-100.0ポイントの下降、総合判断DI値は-100.0ポイントの下降となっている。原材料の更なる値上がりが見込まれ、今後の価格戦略が重要となる。また、新型コロナ感染再拡大により夏休み期間の消費者心理への影響を懸念。

(飲食)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	0.0	0.0	-100.0
②製品・商品在庫	-50.0	-50.0	-50.0
③資金繰り	0.0	0.0	-100.0
④採算(収益)	-100.0	-100.0	-100.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-50.0	-50.0	-50.0
⑥貴社の業況(総合判断)	0.0	0.0	-100.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-50.0	0.0	33.3	0.0	-100.0
収益	-50.0	0.0	-66.7	-100.0	-100.0
総合	-50.0	33.3	33.3	0.0	-100.0

【石油等その他小売】

売上DI値は-75.0、前期実績(1~3月期-12.5)に比して-62.5ポイントの下降、収益DI値は-62.5、前期実績(1~3月期-37.5)に比して-25.0ポイントの下降、総合判断DI値は-50.0、前期実績(1~3月期-37.5)に比して-12.5ポイントの下降となった。原油価格はロシア原油の供給懸念で上昇。中国の都市封鎖等による需要減を受けて下落する局面もあるが比較的高い水準にとどまっている。

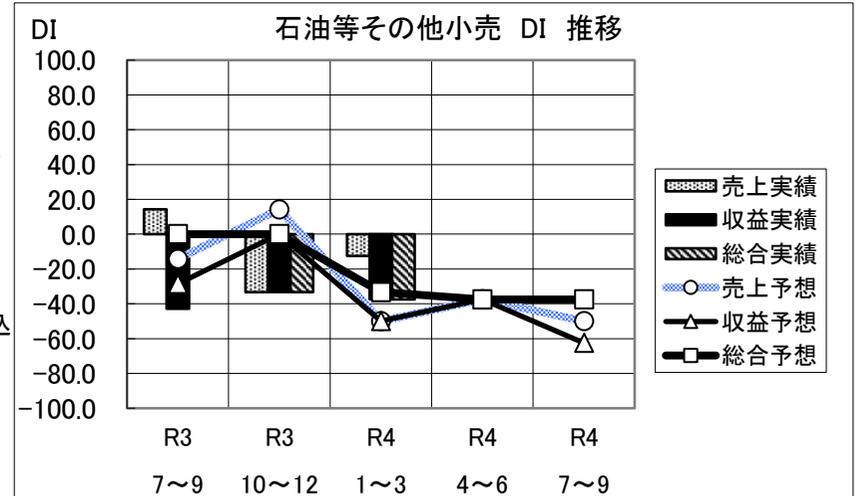
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-50.0ポイントの下降、収益DI値は-62.5ポイントの下降、総合判断DI値は-37.5ポイントの下降となっている。実需の持ち直しで長期的には需要超過傾向で23年末にはコロナ禍前の水準へ回復する観測も、足元ではロシア供給懸念やOPECプラスや米国シェールオイルの増産幅、中国需要の下振れ懸念等で上下する見込み。

(石油等その他小売)

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	-37.5	-75.0	-50.0
②製品・商品在庫	0.0	0.0	0.0
③資金繰り	-25.0	-25.0	-25.0
④採算(収益)	-50.0	-62.5	-62.5
⑤従業員数(含む臨時・パート)	-37.5	-25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	-37.5	-50.0	-37.5



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	14.3	-33.3	-12.5	-75.0	-50.0
収益	-42.8	-33.3	-37.5	-62.5	-62.5
総合	0.0	-33.3	-37.5	-50.0	-37.5

サービス業

売上DI値は33.3、前期実績(1~3月期-50.0)に比して83.3ポイントの上昇、収益DI値は33.3、前期実績(1~3月期-62.5)に比して95.8ポイントの上昇、総合判断DI値は25.0、前期実績(1~3月期-62.5)に比して87.5ポイントの上昇となった。

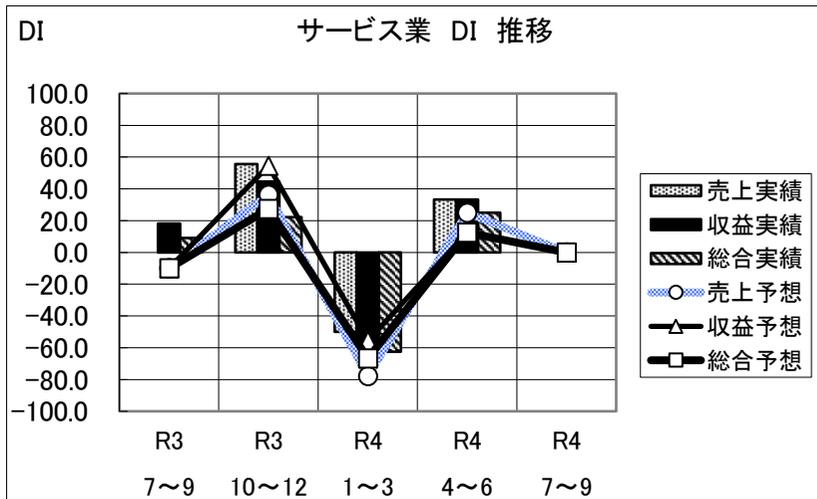
向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は0.0ポイントの横バイ、総合判断DI値は0.0ポイントの横バイとなっている。

サービス業

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	58.3	33.3	0.0
②製品・商品在庫	-9.1	-9.1	-18.2
③資金繰り	8.4	0.0	16.7
④採算(収益)	58.3	33.3	0.0
⑤従業員数(含む臨時・パート)	16.7	25.0	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	50.0	25.0	0.0



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	55.6	-50.0	33.3	0.0
収益	18.1	44.5	-62.5	33.3	0.0
総合	9.1	22.2	-62.5	25.0	0.0

[旅館]

売上DI値は57.1、前期実績(1~3月期-60.0)に比して117.1ポイントの上昇、収益DI値は42.8、前期実績(1~3月期-80.0)に比して122.8ポイントの上昇、総合判断DI値は57.1、前期実績(1~3月期-80.0)に比して137.1ポイントの上昇となった。4~6月は「あい旅eマネーキャンペーン」など県民割・中部ブロック割等の影響で、宿泊者数は前年比7割増も2019年比では未だ6割程度。ウクライナ情勢等にもよるコスト高について、宿泊料金の転嫁は容易でなく利幅が悪化で厳しい。

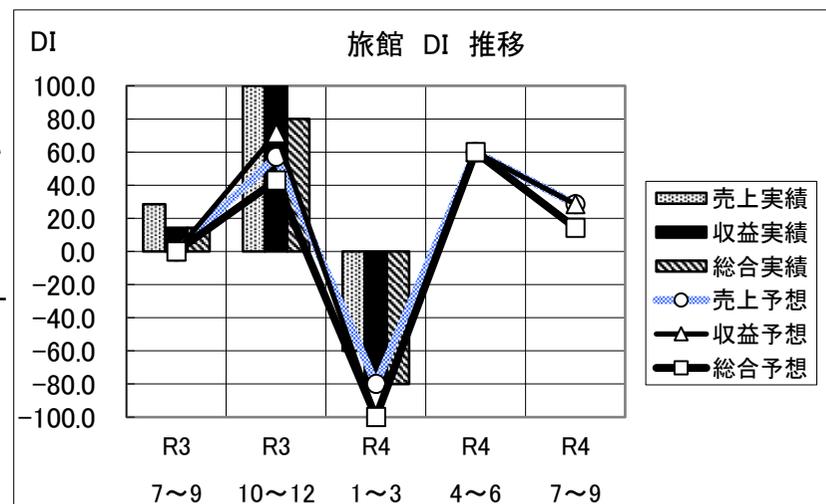
向こう3カ月の見通し

売上DI値は28.6ポイントの上昇、収益DI値は28.6ポイントの上昇、総合判断DI値は14.3ポイントの上昇となっている。蒲郡まつりが3年ぶりに通常開催され、イベントの必要性を改めて感じた。eマネーキャンペーンの延長で夏休み期間の需要も下支えされ、秋には修学旅行の動きもある。今後、大河ドラマ・ジブリパークなどのインパクトで回復を期待している。

(旅館)

(DI 単位: %)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	85.7	57.1	28.6
②製品・商品在庫	-14.3	-14.3	-28.6
③資金繰り	14.3	14.3	28.6
④採算(収益)	71.4	42.8	28.6
⑤従業員数(含む臨時・パート)	28.5	42.8	42.9
⑥貴社の業況(総合判断)	85.7	57.1	14.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	28.5	100.0	-60.0	57.1	28.6
収益	14.2	100.0	-80.0	42.8	28.6
総合	14.3	80.0	-80.0	57.1	14.3

運輸通信業

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-42.8)に比して42.8ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-42.9)に比して42.9ポイントの上昇、総合判断DI値は22.2、前期実績(1~3月期-42.9)に比して65.1ポイントの上昇となった。

向こう3カ月の見通し

売上DI値は0.0ポイントの横バイ、収益DI値は-66.7ポイントの下降、総合判断DI値は-11.1ポイントの下降となっている。

運輸通信業

(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	66.7	0.0	0.0
②製品・商品在庫	-12.5	-12.5	-12.5
③資金繰り	11.1	11.1	-22.2
④採算(収益)	0.0	0.0	-66.7
⑤従業員数(含む臨時・パート)	44.4	11.1	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	33.3	22.2	-11.1

[旅客・貨物輸送・水運]

売上DI値は0.0、前期実績(1~3月期-42.8)に比して42.8ポイントの上昇、収益DI値は0.0、前期実績(1~3月期-42.9)に比して42.9ポイントの上昇、総合判断DI値は14.3、前期実績(1~3月期-42.9)に比して57.2ポイントの上昇となった。全体的な物量は増加しているが、半導体等の原材料不足で伸び悩む自動車関連では前年同期比で減少したケースも見られた。

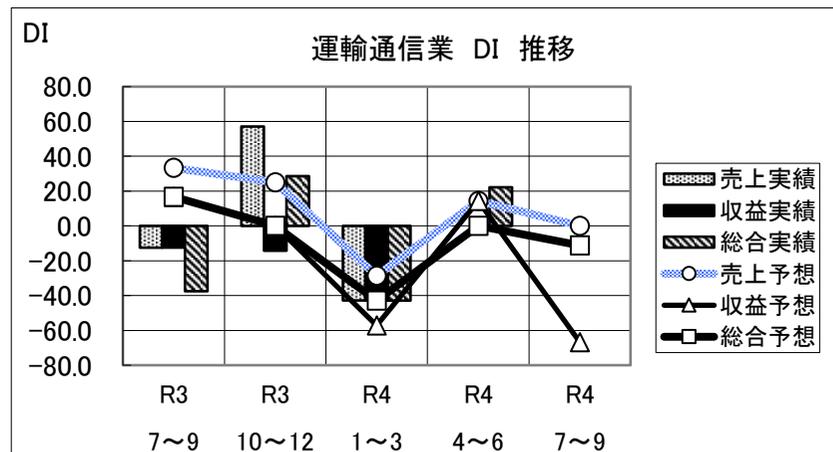
向こう3カ月の見通し

売上DI値は-14.3ポイントの下降、収益DI値は-57.1ポイントの下降、総合判断DI値は-14.3ポイントの下降となっている。経済活動全体は回復基調にあるが、直近で大きな変化はない見込みである。

(旅客・貨物輸送・水運)

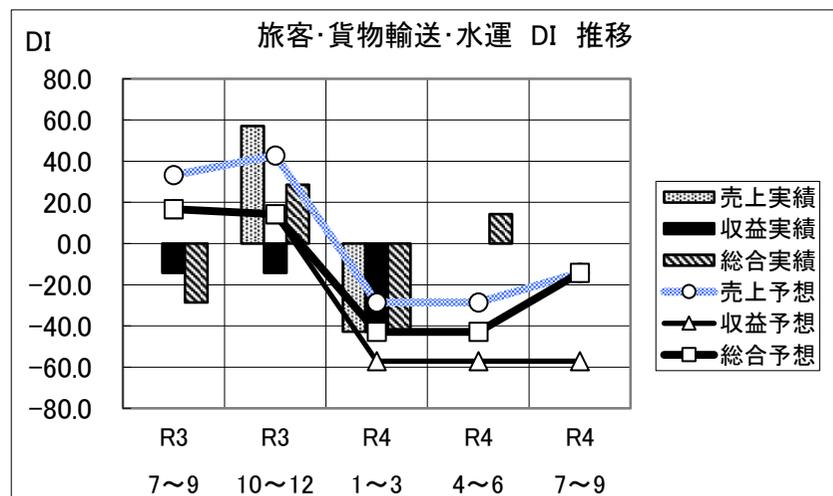
(DI 単位:%)

	前年同期比 令和3年4月~6月 に比べて	前期比 令和4年1月~3月 に比べて	来期見通し 令和4年7月~9月 の見通し
①生産額・売上額	57.1	0.0	-14.3
②製品・商品在庫	-16.7	-16.7	-16.7
③資金繰り	14.3	14.3	-14.3
④採算(収益)	0.0	0.0	-57.1
⑤従業員数(含む臨時・パート)	57.1	14.3	0.0
⑥貴社の業況(総合判断)	14.3	14.3	-14.3



<業況判断DIの推移>

	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	-12.5	57.1	-42.8	0.0	0.0
収益	-12.5	-14.3	-42.9	0.0	-66.7
総合	-37.5	28.6	-42.9	22.2	-11.1

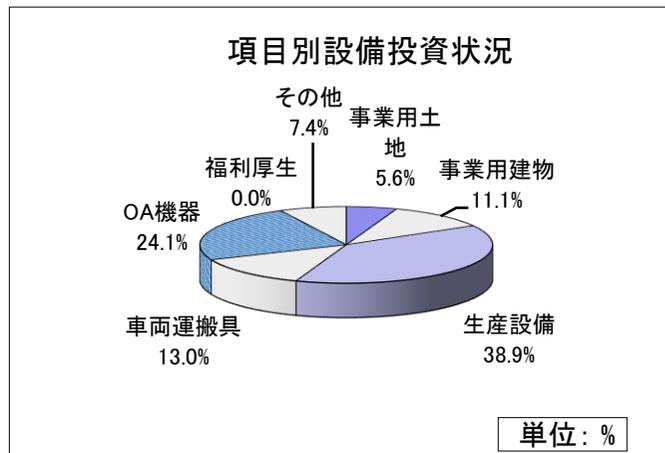
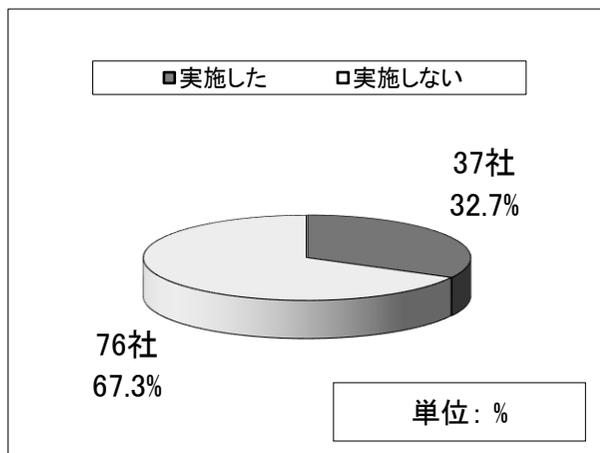


<業況判断DIの推移>

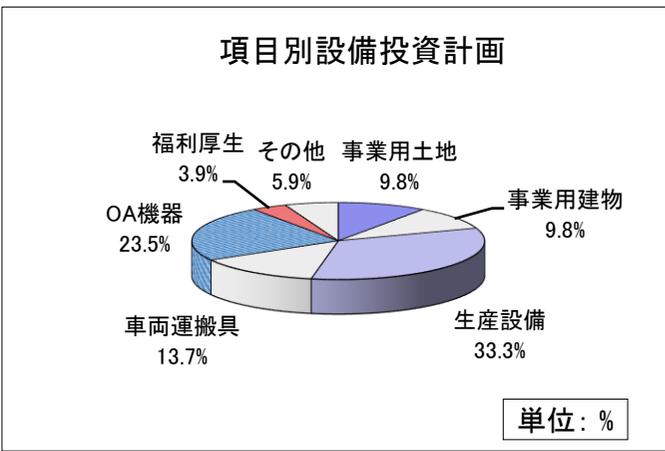
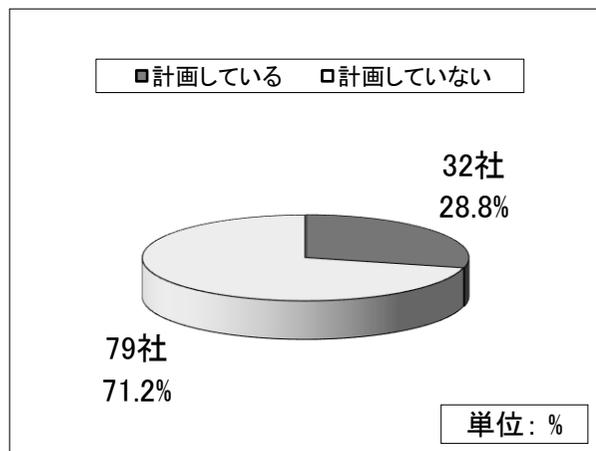
	7~9月	10~12月	1~3月	4~6月	7~9月見通し
売上	0.0	57.1	-42.8	0.0	-14.3
収益	-14.3	-14.3	-42.9	0.0	-57.1
総合	-28.6	28.6	-42.9	14.3	-14.3

7. 設備投資動向

＜今期 R4.4～6＞ 設備投資実施状況 全業種＞



＜来期 R4.7～9＞ 設備投資実施状況 全業種＞



◎設備投資・計画内容(全業種)

	今期	来期見通し
事業用土地	3	5
事業用建物	6	5
生産設備	21	17
車両運搬具	7	7
OA機器	13	12
福利厚生	0	2
その他	4	3
計	54	51

(単位:件)

◎今期・来期 設備投資実施、計画動向

		全業種	製造業	建設業	卸売業	小売業	サービス業	運輸通信業
1. 今期	R4.4～6	37	18	2	1	6	6	4
2. 来期	R4.7～9	32	16	2	3	2	4	5

(単位:事業所)

8. 経営上の問題点

項目別経営上の問題点(全業種)

(上位5項目 回答企業数 113 社)

	項目	件数 %
1	売上の停滞・減少	57 50.4%
2	原材料(燃料)高	53 46.9%
3	利幅の縮小	41 36.3%
4	人手不足	23 20.4%
5	競争激化	16 14.2%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

業種別経営上の問題点

(上位3項目)

	1 位	2 位	3 位
製造業	原材料(燃料)高 48 社	売上の停滞・減少 22 社	利幅の縮小 21 社
	24 社 50.0%	45.8%	43.8%
建設業	売上の停滞・減少 8 社	原材料(燃料)高 4 社	利幅の縮小 3 社
	4 社 50.0%	50.0%	37.5%
卸売業	原材料(燃料)高 17 社	売上の停滞・減少 9 社	利幅の縮小 6 社
	11 社 64.7%	52.9%	35.3%
小売業	売上の停滞・減少 19 社	利幅の縮小 7 社	競争激化 5 社
	14 社 73.7%	36.8%	26.3%
サービス業	原材料(燃料)高 12 社	売上の停滞・減少 4 社	人手不足 3 社
	5 社 41.7%	33.3%	25.0%
運輸通信業	売上の停滞・減少 9 社	原材料(燃料)高 4 社	人手不足 3 社
	4 社 44.4%	44.4%	33.3%

(複数回答の為、総数と一致しません。)

付帯調査(地域データ)

No. 95

番号	調査項目	単位	R04.08報告	基準日	R04.05報告	基準日	R04.02報告	基準日	R03.11報告	基準日	出典
1	人口	人	79,024	R4.7.1	79,085	R4.4.1	79,346	R3.12.1	79,447	R3.9.1	蒲郡市市民課 住民基本台帳
	(うち外国人)		3,295		3,189		3,198		3,211		
2	世帯数	世帯	33,374	R4.7.1	31,752		33,179	R3.12.1	33,179	R3.9.1	"
	(うち外国人)		1,572				1,507		1,540		
3	15才～65才生産人口	人	46,190	R4.7.1	46,199	R4.4.1	47,303	R3.12.1	47,362	R3.9.1	"
	(うち外国人)		2,592		2,601		2,626		2,645		
4	全国完全失業率	%	2.6	R4.5月	2.6	R4.3月	2.8	R3.11月	2.8	R3.8月	総務省 「労働力調査」
	愛知県完全失業率	%		R4.4～6月	1.90	R4.1～3月	2.1	R3.10～12月	2.5	R3.7～9月	愛知県 「あいちの就業状況」
5	全国有効求人倍率	倍	1.27	R4.6月	1.22	R4.3月	1.15	R3.11月	1.14	R3.8月	厚生労働省 「一般職業紹介状況(職業安定業務統計)」
	蒲郡管内有効求人倍率	倍	0.80	R4.5月	0.90	R4.3月	0.69	R3.11月	0.62	R3.8月	豊川公共職業安定所蒲郡出張所 業務月報より

全国一ヶ月

	労働			設備投資・住宅投資		GDP・景気動向指数		消費	
	完全失業者数 (万人)	完全失業率 (季調・%)	有効求人倍率 (季調・倍)	機械受注 (船舶を除く)前年同月比(%)	新設住宅着工 (戸数)	名目国内総生産 (兆円)	実質成長率 実質季節調整後系列(前期比)	消費支出 前年同月比(%) (実質)	新車販売台数(登録車) (万台)
1996年度	225	3.3	0.72	11.4	1,630,378	528.8	2.9	1.0	-
1997年度	236	3.5	0.69	▲ 3.9	1,341,347	533.4	0.0	▲ 0.2	-
1998年度	294	4.3	0.50	▲ 18.6	1,179,536	526.0	▲ 0.9	▲ 0.8	-
1999年度	320	4.7	0.49	0.6	1,226,207	521.9	0.7	▲ 1.8	-
2000年度	320	4.7	0.59	16.6	1,213,157	528.4	2.5	▲ 1.2	-
2001年度	340	5.0	0.59	▲ 12.6	1,173,170	519.2		▲ 1.7	-
2002年度	359	5.4	0.54	▲ 3.7	1,145,553	514.9	0.9	0.1	-
2003年度	350	5.3	0.64	8.2	1,173,649	517.7	2.0	▲ 1.0	588.7
2004年度	313	4.7	0.83	6.5	1,193,038	521.3	1.7	0.4	582.1
2005年度	294	4.4	0.95	5.6	1,249,366	525.6	1.0	▲ 0.4	586.2
2006年度	275	4.1	1.06	5.0	1,285,246	529.0	1.4	▲ 2.2	561.9
2007年度	257	3.9	1.04	2.3	1,035,598	530.9	1.2	0.9	532.0
2008年度	265	4.0	0.88	▲ 16.6	1,039,214	509.5	▲ 3.4	▲ 1.9	470.1
2009年度	336	5.1	0.47	▲ 15.4	775,277	492.0	▲ 2.2	▲ 0.2	488.0
2010年度	334	5.1	0.52	19.4	819,020	499.4	3.3	0.3	460.1
2011年度	284	4.5	0.65	4.2	841,246	494.0	0.5	▲ 2.2	475.3
2012年度	285	4.3	0.80	▲ 7.1	893,002	494.4	0.8	1.1	521.0
2013年度	265	4.0	0.93	10.6	987,254	507.3	2.6	1.0	569.2
2014年度	236	3.6	1.09	8.0	880,470	518.2	▲ 0.4	▲ 2.9	529.7
2015年度	222	3.4	1.23	▲ 1.2	920,537	532.9	1.3	▲ 2.3	493.8
2016年1月	215	3.2	1.28	▲ 11.3	67,815			▲ 3.1	23.7
(平成28年)2月	217	3.3	1.28	▲ 6.7	72,831	135.8	0.7	1.2	27.5
3月	214	3.2	1.30	9.8	75,744			▲ 5.3	40.4
4月	214	3.2	1.34	▲ 1.1	82,398			▲ 0.4	21.2
5月	212	3.2	1.36	▲ 7.3	78,728	134.2	▲ 0.1	▲ 1.1	22.3
6月	208	3.2	1.37	1.3	85,953			▲ 2.2	28.7
7月	201	3.1	1.37	▲ 4.2	85,208			▲ 0.5	28.1
8月	208	3.1	1.37	0.2	82,242	132.6	0.2	▲ 4.6	22.3
9月	202	3.0	1.38	▲ 4.5	85,622			▲ 2.1	31.7
10月	198	3.0	1.40	▲ 10.9	87,707			▲ 0.4	24.2
11月	200	3.1	1.41	24.5	85,051	141.6	0.2	▲ 1.5	27.3
12月	202	3.1	1.43	17.3	78,406			▲ 0.3	26.4
2017年1月	202	3.0	1.43	10.7	76,491			▲ 1.2	25.8
(平成29年)2月	192	2.8	1.43	▲ 0.7	70,912	136.2	0.8	▲ 3.8	31.2
3月	187	2.8	1.45	▲ 12.5	75,887			▲ 1.3	46.0
4月	187	2.8	1.48	▲ 0.2	83,979			▲ 1.4	22.4
5月	206	3.1	1.49	8.6	78,481	136.0	0.4	▲ 0.1	23.7
6月	190	2.8	1.51	3.4	87,456			2.3	31.5
7月	189	2.8	1.52	10.5	83,234			▲ 0.2	27.8
8月	185	2.8	1.52	19.7	80,562	135.1	0.8	0.6	23.3
9月	188	2.8	1.52	7.6	83,128			▲ 0.3	31.8
10月	184	2.8	1.55	12.3	83,057			0.0	23.1
11月	180	2.7	1.56	5.8	84,703	144.3	0.1	1.7	25.8
12月	181	2.8	1.59	▲ 6.6	76,751			▲ 0.1	26.2
2018年1月	164	2.4	1.59	8.7	66,358			2.0	24.3
(平成30年)2月	170	2.5	1.58	7.8	69,071	138.9	0.2	0.1	29.6
3月	172	2.5	1.59	▲ 2.8	69,616			▲ 0.2	43.8
4月	172	2.5	1.59	11.4	84,226			▲ 1.3	22.5
5月	155	2.2	1.60	15.3	79,539	137.8	0.4	▲ 3.9	23.6
6月	167	2.4	1.62	▲ 4.2	81,275			▲ 1.2	29.2
7月	170	2.4	1.63	11.3	82,615			0.1	28.1
8月	166	2.4	1.63	4.9	81,860	135.1	▲ 0.7	2.8	23.3
9月	161	2.3	1.64	▲ 5.4	81,903			▲ 1.6	30.8
10月	166	2.4	1.62	6.1	83,330			▲ 0.3	26.1
11月	169	2.5	1.63	4.0	84,213	144.3	▲ 0.3	▲ 0.6	27.9
12月	164	2.4	1.63	▲ 4.0	78,364			0.1	25.0
2019年1月	172	2.5	1.63	▲ 8.5	67,087			2.0	24.9
(平成31年)2月	160	2.3	1.63	▲ 3.7	71,966	138.9	0.6	1.7	30.0
3月	174	2.5	1.62	▲ 0.2	76,558			2.1	41.7
4月	168	2.4	1.63	▲ 6.0	79,389			1.3	23.0
(令和元年)5月	162	2.4	1.62	▲ 10.1	72,581	138.5	0.5	4.0	24.7
6月	161	2.3	1.61	0.9	81,541			2.7	29.0
7月	154	2.2	1.59	▲ 10.6	79,232			0.8	30.0
8月	154	2.2	1.59	0.9	76,034	136.9	0.0	1.0	24.2
9月	167	2.4	1.58	▲ 6.4	77,915			9.5	34.7
10月	166	2.2	1.58	▲ 8.8	77,123			▲ 5.1	19.2
11月	151	2.2	1.57	▲ 15.2	73,523	144.0	▲ 2.8	▲ 2.0	23.8
12月	145	2.2	1.57	▲ 7.9	72,174			▲ 4.8	22.6
2020年1月	159	2.3	1.49	▲ 0.8	60,341			▲ 3.9	22.1
(令和2年)2月	159	2.4	1.45	▲ 7.7	63,105	137.6	0.5	▲ 0.3	26.8
3月	176	2.5	1.39	0.1	70,729			▲ 6.0	37.4
4月	189	2.6	1.32	▲ 10.1	69,162			▲ 11.1	17.2
5月	198	2.9	1.20	▲ 20.9	63,839	126.1	▲ 7.9	▲ 16.2	14.7
6月	195	2.8	1.11	▲ 22.4	71,101			▲ 1.2	21.4
7月	197	2.9	1.08	▲ 17.9	70,244			▲ 7.6	23.9
8月	206	3.0	1.04	▲ 17.0	69,101	131.0	5.3	▲ 6.9	19.7
9月	210	3.0	1.03	▲ 1.5	70,186			▲ 10.2	29.3
10月	215	3.1	1.04	▲ 1.2	70,685			1.9	25.3
11月	195	2.9	1.06	1.3	70,798	143.1	1.8	1.1	25.3
12月	194	2.9	1.06	18.7	65,643			▲ 0.6	24.3
2021年1月	197	2.9	1.10	▲ 1.0	58,448			▲ 6.1	23.6
(令和3年)2月	194	2.9	1.09	39.8	60,764	135.1	▲ 0.4	▲ 6.8	26.2
3月	188	2.6	1.10	▲ 5.4	71,787			6.2	38.4
4月	209	2.8	1.09	14.7	74,521			13.0	21.0
5月	211	3.0	1.09	41.1	70,178	133.8	0.6	11.6	19.3
6月	206	2.9	1.13	35.5	76,312			▲ 5.1	23.4
7月	191	2.8	1.15	43.9	77,182			0.7	23.4
8月	193	2.8	1.14	20.6	74,303	131.0	▲ 0.8	▲ 3.0	20.6
9月	192	2.8	1.16	12.6	73,178			▲ 1.9	20.5
10月	183	2.7	1.15	28.3	78,004			▲ 0.6	17.6
11月	182	2.8	1.15	24.7	73,414	141.8	1.0	▲ 1.3	21.9
12月	171	2.7	1.16	17.6	68,393			▲ 0.2	21.8
2022年1月	185	2.8	1.21	20.0	59,690			6.9	20.7
(令和4年)2月	180	2.7	1.22	▲ 16.8	64,614	135.0	▲ 0.1	1.1	21.3
3月	180	2.6	1.22	14.3	76,120			▲ 2.3	32.7
4月	188	2.5	1.23	25.4	76,294			▲ 1.7	17.8
5月	191	2.6	1.27	13.2	67,193			▲ 0.5	16.1
6月			1.27		74,596				19.7

(内閣府)

(国土交通省)

(内閣府)

(総務省)

(自販連統計)